

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和5年度病虫害発生予察技術報第3号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第3号を発表したので送付します。

県内3地点に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップのうち2地点で9月1半旬にピークが見られ、平年より誘殺数が多くなっています。

また、県全域において、大豆におけるハスモンヨトウの発生やイチゴのチョウ目被害も増加傾向です。今後も発生に好適な気象条件が続くと予想されますので、防除を徹底してください。

技術情報第3号

1 対象作物名：大豆、野菜類（イチゴなど）

2 病虫害名：ハスモンヨトウ

3 発生状況

- (1) 8月1半旬から5半旬のフェロモントラップにおける雄成虫の誘殺数は平年並で推移した。9月1半旬以降、筑後市、行橋市においてハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より増加している（図1）。特に行橋市においては、9月1半旬において平年比7.5倍となっている。
- (2) 大豆の9月2半旬調査の結果では、ハスモンヨトウの10株当たり払い落とし幼虫数は2.8頭（平年5.5頭）、発生ほ場率100%（平年67.6%）で、8月5半旬から増加傾向である（図2）。また、白変葉発生株率は4.7%（平年1.6%）、発生ほ場率は100%である（平年45.2%）。
- (3) イチゴの9月2半旬調査の結果では、チョウ目被害株率は4.0%（平年2.4%）、発生ほ場率50%（平年48.7%）で、8月5半旬から増加傾向である（図3）。

4 防除上注意すべき事項

(1) 共通

- ア ほ場周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。
- イ 中齢幼虫になると薬剤の効果 が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに薬剤防除を実施する。
- ウ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。
- エ フェロモントラップを活用した防除適期の目安は、誘殺ピークから10日目頃であるが、地域によって誘殺数に差があるため、ほ場で発生状況を必ず確認し、防除する。

(2) 大豆

ほ場のハスモンヨトウや白変葉の発生状況を確認し、薬剤防除を実施する。

(2) 野菜

ア 施設栽培の場合は、ハウスの開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を張り、成虫の飛び込みを防止する。

イ イチゴ、ナス、トマト等の果菜類では、葉以外にも花蕾や果実を食害するため注意する。

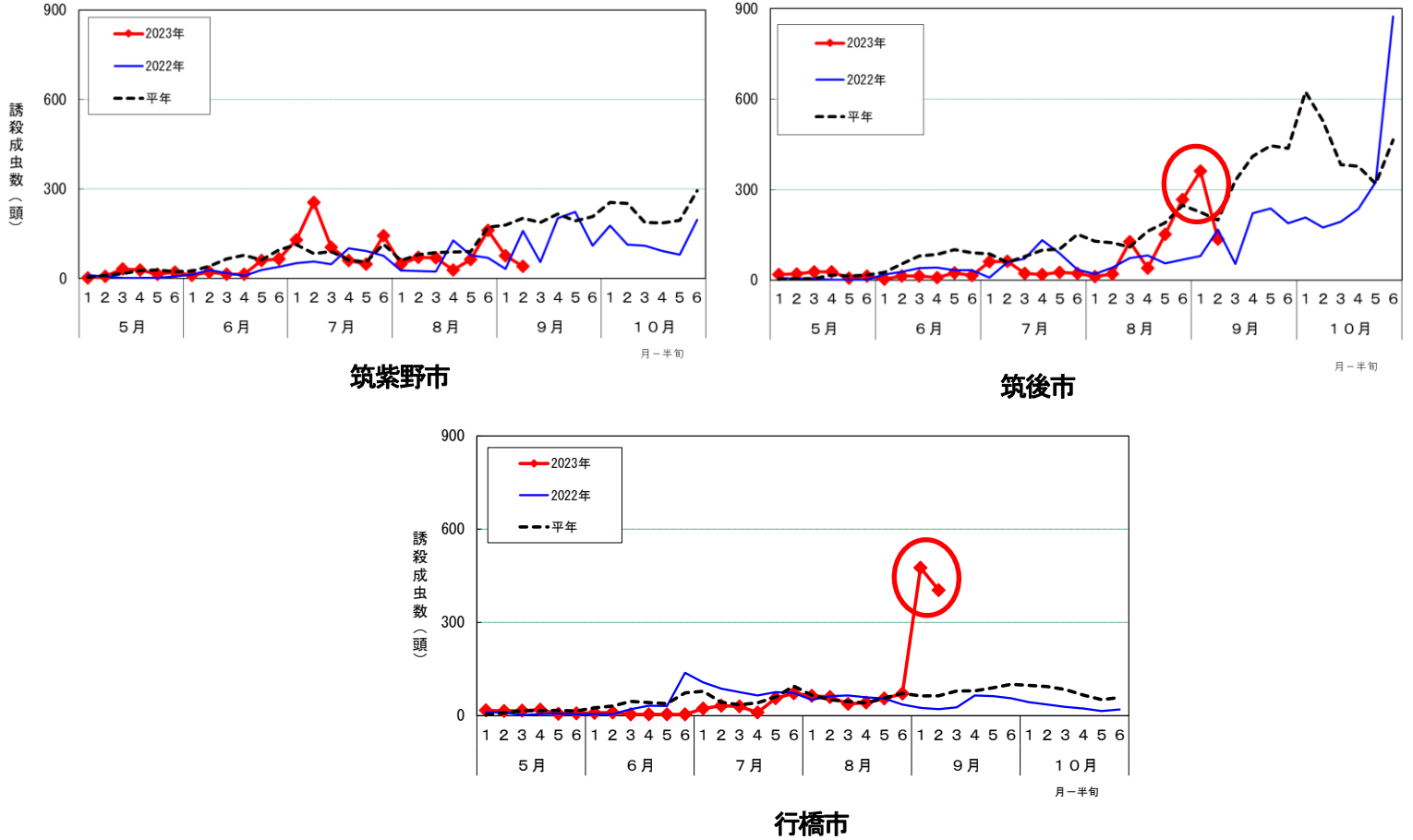


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺成虫数

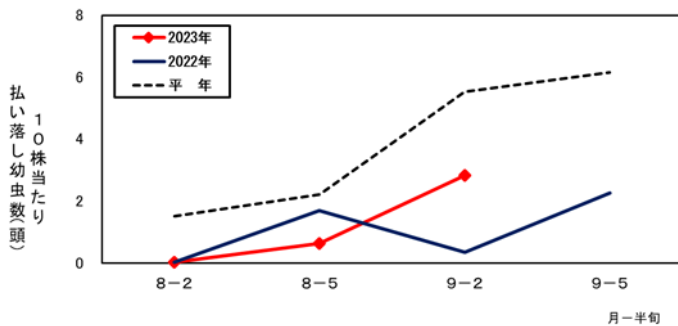


図2 大豆におけるハスモンヨトウ幼虫発生密度の推移

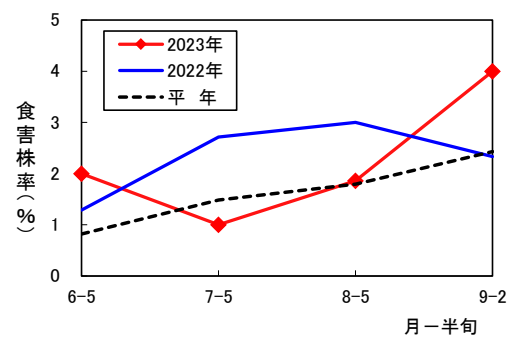


図3 イチゴにおけるチョウ目被害の推移

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①

○X (旧 Twitter) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

X (旧 Twitter) の本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコー

